

三重県私費外国人留学生奨学金留学レポート

リ コウさん

皇學館大学 コミュニケーション学科

2019年1月更新

・専攻している科目の学習内容について書いてください。

私は今、コミュニケーション学科の臨床、ポジティブ心理学研究室に所属しています。専攻は臨床心理学です。臨床心理学とは、人の異常心理や生活していく上で問題となる行動の原因を科学的に探求し、その成果を踏まえて問題の改善を目指すための学問です。指導教員の指導のもとで、私の卒業論文は順調に進んでいます。テーマは「親の養育態度が青年期における対人恐怖心性に及ぼす影響」です。この研究では、心理的な視点から分析し、対人恐怖心性を多元的に捉え、その症状や種類によって、親の養育態度との関係がどのように異なるのかという点について究明することを目的とします。

・日本を留学先として選んだ理由は何ですか。

私は小さい頃から日本に興味を持っています。したがって、メディアから様々な日本文化を習得しました。日本の風土や日本人の生活習慣への関心もますます増えています。いつか必ず日本に行って、自ら体験してみたいと思っています。そのため、大学を選んだときの私は、躊躇せずに日本語学科を志望しました。また、留学という経験を通して、将来国際的に活躍できるようになりたいと思います。言語はあくまでも一つの手段で、異なる国で新たな知識を習得することが大事だと思います。

・留学後の日本の印象は、留学前と比べてどのように変わりましたか。

日本に来る前に、私が日本に対する印象は自然環境の良い国でした。ここに来て初めて、当地の人々と接することによって、日本人の優しさと思いやりに感銘を受けました。重たい荷物を持って階段を上がる時や道に迷った時には、必ず助けをくれる人がそばにいます。学校の先生とバイト先の上司も非常に優しくしてくださるので、まるで家族のような存在です。最初は二年間だけここで過ごすつもりでしたが、今はもっとここに居たいと思うようになりました。周りの人を見るたびに、「私はこのような素敵な人になればよかった」と思うようになります。だから、今の私は一年前の私より、少なくとも成長した気がします。これからもより多くの日本人と友達になりたいと思います。

・出身地(気候、名所、名産、三重県からの行き方、三重県とのかかわり等)について

私の出身地は中国の河南省です。河南省は三重県とよく似ていて、両方とも居心地の良いところだと思います。河南省と言えば、洛陽市が一番象徴的な都市だと思います。洛陽市は、北京(ペキン)、西安、開封(かいほう)などとともに中国六大古都の一つで、市内には竜門石窟(せつくつ)や中国仏教の発祥地と伝えられる白馬寺、三国時代の英傑関羽(かんう)の墓のある関林、各時代の故城などの古跡が数多く残っています。竜門石窟という観光地は2000年に世界遺産の文化遺産(世界文化遺産)に登録されました。できれば、世界各地の人々に洛陽市の美しさを見てもらいたいと思います。

・前期に、あなたが関わった国際交流・貢献活動について教えてください(ボランティア活動など)。

今学期は「中文会」という大学の先生たちに中国語を教えて差し上げる活動に参加しました。先生と話し合っ、日本文化を習得すると同時に、中国文化の輸出もできました。さらにディスカッションによって、日中文化の比較も行いました。それに、中国のニュース原稿を日本語に翻訳して、先生と意見を交換することも常にあります。このような活動のおかげで、日本文化についてもっと深く知るようになりました。今後もこのような活動に参加して、日本の方々に中国の文学や歴史などの魅力を伝えたいと思っています。

2018年10月更新

・あなたの留学目的は何ですか。

私は小さい頃から日本に興味を持っています。したがって、メディアから様々な日本文化を習得しました。日本の風土や日本人の生活習慣への関心もますます増えています。いつか必ず日本に行って、自ら体験してみたいと思っています。そのため、大学を選んだときの私は、躊躇せずに日本語学科を志望しました。また、留学という経験を通して、将来国際的に活躍できるようになりたいと思います。言語はあくまでも一つの手段で、異なる国で新たな知識を習得することが大事だと思います。

・専攻している科目の学習内容について書いてください。

私は今、コミュニケーション学科の臨床、ポジティブ心理学研究室に所属しています。専攻は臨床心理学です。臨床心理学とは、人の異常心理や生活していく上で問題となる行動の原因を科学的に探求し、その成果を踏まえて問題の改善を目指すための学問です。指導教員の指導のもとで、私の卒業論文は順調に進んでいます。テーマは「親の養育態度が青年期における対人恐怖心性に及ぼす影響」です。

・現在の大学に入学するにあたり、どのような手続きやテストが必要でしたか。

皇學館大学に入学するひとつの条件となったのは、日本語能力試験二級に合格することです。私は大学一年生のときにこの資格を取得しました。次は筆記試験と口頭試験です。筆記試験の内容は小論文で、論理性や説得力の高さにポイントが置かれます。口頭試験では、上達した日本語力が必要とされます。特に小論文の成績は非常に大事なため、何回も練習を重ねる必要があります。口頭試験は過去問題に参考しながら、自分なりの答えを考える必要があります。

・留学校を決めるにあたって利用した資料や機関はありますか。

私の所属していた河南師範大学と連携する留学校は皇學館大学、三重大学、山形大学という三つの大学です。三重大学と山形大学の留学期間は一年間で、皇學館大学は二年間です。学校を決める際に、私はそれぞれの大学のホームページを閲覧して、各学部の学科や教員などを調べました。ほかに、学校の雰囲気や、具体的な授業形式などについては、各大学に留学している先輩たちに教えてもらいました。機関などは特に利用しませんでした。

・現在の留学校に決めた一番の理由は何ですか。

臨床心理学を勉強したいと思って、現在の留学校に決めました。大学一年生のときに、教育心理学という講義を受けて、心理学に興味を持つようになりました。その後、様々な心理学に関する本や雑誌などを読みました。それに、心理学を勉強するのに、一年間ではまだまだ足りないと思うので、留学期間の長い大学を選びました。特に皇學館大学の心理学の授業は先輩からも高く評価されています。

・昨年度、あなたが関わった国際交流・貢献活動について教えてください(ボランティア活動など)。

春学期は大学の先生たちに中国語を教える活動に参加しました。先生と話し合っ
て、日本文化を習得すると同時に、中国文化の輸出もできました。さらにディスカッションによって、日中文化の比較も行いました。それに、中国のニュース原稿を日本語に翻訳して、先生と意見を交換することも常にあります。このような活動のおかげで、日本文化についてもっと深く知るようになりました。